

伊賀市社協だより

令和5年1月1日発行

No.212
11月号



正しい災害情報を把握し、避難行動をとるために

外国人防災リーダーと共に、伊賀市防災・情報アプリ「ハザードン」(多言語版)登録支援活動実施！！

～R5.10.1 伊賀市国際交流フェスタにて～



みんなで登録しよう！

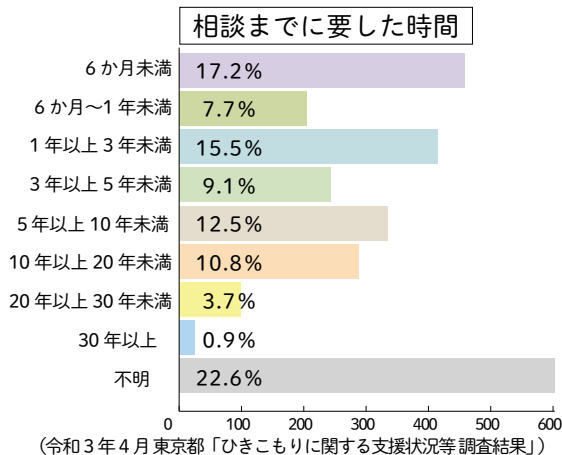
伊賀市防災・情報アプリ
「ハザードン」



「ひきこもり」について知ってください。

ひきこもり件数は、15歳～64歳の生産年齢人口において推計146万人、50人に1人がひきこもり状態といわれています。伊賀市で推計すると、15歳～64歳のうち、約1000人が該当します。

ひきこもりの人は、ひとりひとりの状況が異なります。例えば、不登校や就労経験の有無やその長さ、病気や障がいの有無、家族間の関係性など、それぞれです。そして、ひきこもりの人もその家族も、世間からの大きなプレッシャーを感じ、長い年月思い悩んでから、ご相談につながるものが大多数です。



ご相談は、必ずしも「ひきこもり」の相談として、福祉の窓口に来られるわけではありません。また、ひきこもりに関する悩みは、本人や家族も誰にも相談できないことも多くあり、親族や周りの人から相談支援が始まる場合があります。相談までの期間が長くなるほど、年齢も重ねることからも、早めに相談支援につながることで、ご本人の望む生活に近づけるきっかけになると考えます。

伊賀市社協では、ご本人のペースに寄り添った伴走者でありたい。ご本人のためにも家族が元気であってほしい。そして、地域のみなさんが「ひきこもり」について、正しく理解していただき、ひきこもりにやさしい地域を目指したい。そんな想いを持って、さまざまな支援活動を行っています。

「ひきこもり」ってなに？

- ▶ 様々な理由から、学校への登校、アルバイトや仕事などの外との交流を避け、原則的には6ヶ月以上にわたって家庭にとどまり続けている状態です。
- ▶ 他者と交わらない外出(買い物、ドライブなど)は、可能なこともあります。
- ▶ ひきこもりは、原則として統合失調症の患者は含まれませんが、推計数には診断前の患者が含まれている可能性があります。
- ▶ 「ひきこもり」は「状態」であり、そのものは病気でも障がいでもありません。



伊賀市社協では、ひきこもりに関する支援活動を行っています

居場所 相談支援



とは、巣・居心地のいい場所・休む場所という意味。地域ぐるみで、生きる力をつなぐ居場所を目指しています。ひきこもり状態でお悩みのご本人・ご家族、まわりの方からのご相談を受けています。ご希望により、面談や自宅訪問も行います。

nest (フリースペース開所)

- ✓ 毎週水・金曜日 13:00～16:30
- 📍 伊賀市社協 くらしサポートセンター おあいこなまちサテライト(上野中町)
- 👤 ひきこもり状態でお悩みの方やご家族
- 💰 無料
- ☎ 090-3483-2584 ※電話相談は平日 8:30～17:15



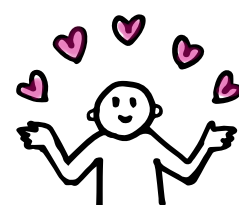
人・地域 づくり

ひきこもりについて正しく理解し、ひとりひとりが地域でできることを一緒に考えていく、サポーターを養成しています。サポーターと共に、農園での農作業や、地域支援者向けの勉強会などの啓発活動をしています。



家族 支援

ご家族がひきこもっているご本人に関わり続けてゆけるよう、ご家族自身をサポートさせていただきます。ご家族同士の仲間作りとして、家族会の設立支援もしています。



『ひきこもりサポーター』
をご紹介します

■伊賀市社協が伊賀市と共催で令和3、4年度に開催した「伊賀市ひきこもりサポーター養成講座」では、69人が受講され、33人がサポーター登録しています。現在活動されている、増田道子さんと森川輝美さんにお話を伺いました。

ひきこもりサポーター
森川 輝美さんひきこもりサポーター
増田 道子さん

●当事者のご家族との出会い

令和3年、当時民生委員児童委員だった増田さん。「民生委員児童委員の見守り対象者は高齢者が多く、ひきこもりの方やご家族から直接ご相談を受けたことがなく、知識もありませんでした。」とのこと。増田さんは元保育士で、保育所で管理栄養士としてお仕事仲間だった森川さんを誘って、ひきこもりサポーター養成講座を受講す

ることにしたそうです。森川さんも、地域の人のことやいろいろな立場の方の悩みを知り、「ひきこもり」についても学びたいと考え、受講を決められました。

●受講してからの気持ちの変化

お二人は講座を受講されて、多くの気づきがあったそうです。受講者の中には、ひきこもりのお子さんのいるお母さんもおられ、実際の切実な悩みを聞く中で、子育てを経験した同じ親としても、とても他人事とは思えない気持ちになったそうです。

「お母さんが、部屋の中から出られない子どものことを考え、家の中で悶々としている気持ちをみんなの前で話すのに、とても勇気がいったと思います。ご本人やご家族の悩み、子どもへの気持ちの変化など、知らなかったことがたくさんありました。」と増田さん。「これまで、いろんな葛藤があったのだと思いました。」と森川さんも頷かれます。

また、増田さんは、「養成講座を受講するまでは、正直『仕事も行かんと』とも思っていたけれど、『ひきこもり』について勉強すると、少しは理解ができ、自身の考え方も変わってきました。ひきこもりの方やご家族と出



話されます。

またお二人は、これまでは意識していなかったひきこもりについて、新聞やニュースなどで「ひきこもり」という言葉が気になり、注目するようになったとのこと。「一人でも多くの人に、関心を持ってもらえることが大切」と考えておられます。

●サポーター活動は、楽しい！

お二人は現在、伊賀市社協が運営する、ひきこもりの方の居場所「こころ」や、おあいこ中町サテライトでの就労支援で月2回活動するほか、隔月で「ひきこもりサポーター定例会」にも参加。また、社協職員と共に地区民生委員児童委員の定例会にお伺いし、ひきこもりへの正しい理解についてや、サポーター活動のお話もしています。

森川さんは、「私自身、楽しく参加させてもらっています。いろんな人と一緒に活動することは、とても楽しいです。」と話しています。森川さんは民生委員児童委員としても活動してお

会った時に、知識を持っていれば、これまでと違う視点でお話を聞くことができるのではと思います。」と

り、「ひきこもっているご本人や、ご家族も悩まれていると思います。民生委員児童委員や、相談できる誰かに話すなど、一人で悩まないでほしいと思います。また、このような居場所があることを多くのの人に知ってもらいたいのです。ボランティアも参加してほしいですね。」と話してください。

●その人をゆっくり理解し、慌てずに見守ってゆける社会に

増田さんは、ひきこもりサポーターやご自身の経験として、「勤めていた頃は一生懸命で、仕事の分野以外のことは知らないことがたくさんありました。人間、いくつになっても、勉強しやなあかんと思います。特に、経験者の話を聞くことが、説得力があつて、大変勉強になると思っています。ひきこもっているその人のことをゆっくりと理解し、慌てずに見守ってゆける社会になれば。」と、話してくださいました。



～ 気軽に安心して使える自習室 + ゆっくりできる居場所の提供を ～

10代の居場所 オープン



「学校が終わって塾が始まるまでの時間、10代の子もたちが安心して過ごすことのできる自習室があれば」「家でも気が張って、ホッとできる時間がない子どもたちがたくさんいる」
…そんな市民の声から、「10代のふれんど Cafe」が生まれました。



「宿題、もう終わったよ！」

扉を開けると、子どもたちの元気な声が響いています。勉強をしている高校生の横で、「同じ高校に行きたい」と、目標を話してくれる小学生、ホワイトボードに絵を描く小学生…

代表の天野さんは、「10代のふれんど Cafe」を立ち上げたきっかけとして、令和4年に伊賀市社協が開催する「地域食堂連絡会」の視察で、桑名のNPO法人太陽の家が運営する「ゆうやけカフェ」を訪れた時、伊賀市にはこのような10代の子の居場所はないな…と思ったことだと話していただきます。

そして、有志の仲間7人で集まり、下校してから塾が始まるまでの時間を安心して過ごせる場所や、悩みごとを抱えて心が追い込まれてしまう前に、誰かに話ができるような居場所が必要ではないかと考えました。それから約1年間、学生や学校からも話を聞きながら、どんな居場所が望ましいかの検討を重ねたそうです。

令和5年9月19日のプレオープンでは、16名ほどの児童や学生が自習室を利用して勉強に励んだり、奥の和室では、おやつを食べながらスタッフとおしゃべりしたり、ゲームを楽しんでいました。

天野さんは、「親にも弱音を言えない」「学校でも共感してもらえる人が少ない」そんな子どもたちが、安心して話をするのできる大人がいるということを知ってもらえたら、と話していただきました。



10代のふれんど Cafe

- ✓ 毎月第1・3火曜日
15:00～18:30(冬は18:00)
- 📍 伊賀市社協 暮らしサポートセンター
おあいこなまちサテライト(上野中町)
- 👤 主に10代が利用(申込不要)
- 💰 無料

「気軽に覗いてみてください」と、
代表の天野さん(中央)と有志のみなさん



日本の子どもを
取り巻く環境は？



ユニセフの報告書による

と、日本の子どもたちの精神的幸福度は、先進諸国38ヶ国中37位の、ワースト2位となっています。(2020年・ユニセフレポートカード16「子どもたちに影響する世界」)

また、厚生労働省によると、15～19歳の死因の第1位が「自殺(50・8%)」となっており、第2位の「不慮の事故(18・2%)」を大きく上回っている状況があります。(令和4年度版自殺対策白書)

このようなデータからも、日本の子どもたちを取り巻く環境の改善が必要です。

伊賀市社協では、子どもたちが夢や希望を持てる社会になるよう、市内でのさまざまな子どもたちの支援活動を広げることが応援しています。



「もったいない」を「ありがとう」に…
ご家庭などで眠っている食糧のご寄付を募ります!!



募集 ▶ 常温保存ができる食品、未開封の子ども用紙おむつ
食品は、賞味期限が1ヶ月以上あり、未開封のもの
例) 米・レトルト食品(ご飯・おかず等)・缶詰・カップ麺・
パスタ・飲料・お菓子など

- 賞味期限が明記されていない食品、お酒などの嗜好品は受付できません。
- 時間内の持ち込みが難しい場合は、ご相談ください。

日時 2023年 **12月4日** 月 ~ **8日** 金
時間 8:30~17:00
場所 伊賀市社協 各地域センター (直接お持ちこみください)

お問い合わせ先

伊賀市社会福祉協議会

上野地域センター ☎(21)1112
阿山地域センター ☎(43)1854

いがまち地域センター ☎(45)1012 島ヶ原地域センター ☎(59)3132
大山田地域センター ☎(47)0780 青山地域センター ☎(52)2999

●主催／(福)伊賀市社会福祉協議会 ●協力／伊賀市社会福祉法人連絡会、生活協同組合コープみえ



**生活相談会と、米・紙オムツ・生理用品を
無料でおわたします**

対象 ▶ 伊賀市にお住まいの、コロナや物価の値上げ
などで、生活に影響を受けている世帯

日時 2023年 **12月24日** 日
時間 10:00~12:00
場所 伊賀市総合福祉会館 駐車場

要予約
先着150世帯
申込受付期間
11/6~11/30

- 当日、お困りごとの相談もできます。
- マイバック等をお持ちください。
- 当日来場できない場合は、事前にご相談ください。

提供品 (事前予約制)

▶ お米、保存食糧、紙オムツ、生理用品等

申込・お問い合わせ先

伊賀市社会福祉協議会
くらしサポートセンターおあいこ
☎ 0595(22)0084

申込 QRコード▼



★この事業は、歳末たすけあい配分金を活用して実施します。

●主催／(福)伊賀市社会福祉協議会 ●協力／伊賀市社会福祉法人連絡会、伊賀市民生委員児童委員連合会、生活協同組合コープみえ

チャリティマルシェ & フードドライブ

ネットトヨタ三重(株)上野店では、これまでから地域に貢献できることを検討しており、このたびチャリティマルシェ&フードドライブを開催することになりました。初の試みですが、ナポリタン・からあげ・たこやき・サンドイッチなど、お買い上げいただいた売上の一部を伊賀市社協に寄付させていただきます。

ご来店は、マルシェのお買い物だけでなく大歓迎です！当日は、ぜひ会場へお越しください。

【日時】11月12日(日)

午前9時30分～午後5時

【場所】

ネットトヨタ三重(株)上野店
(四十九町1794・8)

イオンタウン道向かい)

【フードドライブ】賞味期限が1ヶ月以上あり、未開封のもの。(例)米・レトルト食品・缶詰・カップ麺・パスタ・飲料・お菓子など。

※募集品は、5頁を参照

【問い合わせ先】

ネットトヨタ三重(株)上野店

☎23・0231



伊賀市社協 通所介護事業所の運営終了のお知らせ

おおよまだデイサービスセンター「さるびの」は、令和5年9月30日をもって、伊賀市社協による運営を終了し、同年10月1日より新たに特定非営利活動法人いきいきライフ協会に、通所介護事業の運営を引き継ぎいたしました。これは、おおよまだデイサービスセンター「さるびの」が、これまで一般社団法人大山田温泉福祉公社から通所介護事業の運営委託を受けて、長年事業を実施してまいりましたが、さるびの温泉施設の運営法人が、令和5年4月1日より、株式会社Y'sコーポレーションに変更となったことに伴い、伊賀市社協による通所介護事業の運営が終了となったものです。今後は、新たに「さるびの温泉デイサービス」として、事業が継続されます。

大山田村の時代から長きにわたり、通所介護事業所として多くの高齢者にご利用いただき、ここに改めて御礼を申し上げます。ありがとうございました。今後は、当会として、引き続き大山田地域センターを中心に地域福祉の増進に貢献してまいります。

歳末たすけあい募金配分金事業 世代間交流事業 申請受付中

歳末たすけあい募金を活用し、年末年始に身近な地域での複数世代(2世代以上)の交流事業に助成します。

【助成対象団体】ふれあい・いきいきサロン、住民自治協議会、自治会、民生委員児童委員協議会、地域サークル等。

【助成の対象事業等】概ね令和5年12月～令和6年1月に実施する、事業運営に必要な活動経費の一部助成等

【助成対象】複数の世代がいることが原則とし、単一世代のみは対象外。

【助成額】参加者の合計に応じて、5千円～3万5千円を助成

【助成内容】講師報償費、会場使用料及び機材使用料、食料費及び光熱水費、行事保険料、その他

【申請方法】申請用紙を社協各地域センター窓口または、伊賀市社協ホームページよりダウンロードして、11月15日(水)までに提出。

【申込・問い合わせ先】伊賀市社協各地域センター

みつけませんか
えがおと出会える福祉のお仕事

福祉のinみえ
就職フェア

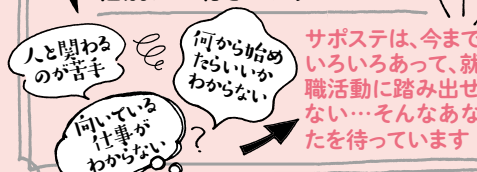
四日市会場▶11/19(日)
津会場▶11/26(日)
伊勢会場▶11/23(木祝)

【時間】13:30～15:30

主催／三重県福祉人材センター
☎059-227-5160

自分らしく 踏み出す 一歩 15～49歳までの、仕事に就きたいと思っている人とその家族を応援しています。

★現在の状況や就職活動の悩みを個別にお聴きします



サポステ

いが若者サポートステーション

☎0595-22-0039

伊賀市上野丸之内500 ハイピア伊賀3階

■開所日/月～金 9:00～17:00(土・日・祝・年末年始は休み)

✳就職相談
✳各種講座

利用無料
要予約

12月 無料パソコン講座

【ワード】11日(月)
【エクセル】13日(水)/18日(月)
【パワーポイント】20日(水)
【時間】10:00～15:15

要予約 サポステ出張相談(ハローワーク伊賀)
11月21日 火 13:00～16:00





コープみえ「くらしあんしん講座」・伊賀市社会福祉協議会・名張市社会福祉協議会 共催

食えること・生きること・つながること ～私たちができるミライ応援団!!～

令和5年

11月11日 土
13:30～16:00

参加
方法

参加費
無料

- ①Zoomオンライン視聴
- ②会場参加（定員100名）
青山福祉センター
（阿保1988番地1）



コロナ禍でのフードパントリーや生活困窮者支援等を通じて、子どもの貧困問題に着目し、講座を開催します。支え合いの輪を広げるために、私たちができることを考えてみませんか？

●申込方法／11月10日(金)までにお申し込みください。メールは件名を「くらしあんしん講座」とし、開催日・参加方法・名前・電話番号・参加人数を記入し、送信してください。

①コープみえ取組状況報告

②ミライ応援団からのメッセージ

- つばめカフェ（子ども食堂）
- ほっとまち茶房ききょう（コミュニティカフェ）

③ミニトーク・みんなと深めたいむ

- 講師・コーディネーター／
皇學館大学 現代日本社会学部 准教授 大井智香子氏



（大井智香子氏プロフィール）各地で育まれてきた先人の智慧から学びつつ、それぞれの風土に根ざした福祉のあり方、住民によるまちづくりの構築をテーマに活動。三重県社会福祉協議会高齢者福祉専門分科会委員、伊賀市地域福祉計画推進委員長ほか多数。

申込・連絡先

生活協同組合コープみえ 伊賀センター

☎0120-83-7810 メール／igaarea@coop-mie.jp

メール作成画面▶



共催／コープみえ・伊賀市社会福祉協議会・名張市社会福祉協議会 後援（依頼中）／伊賀市、名張市、三重県社会福祉協議会

歳末たすけあい募金配分事業 福祉映画会



加賀まりこ 塚地武雅

梅切らぬバカ

©2021「梅切らぬバカ」フィルムプロジェクト

■と き／2023年12月17日 日 上映時間77分
字幕あり

①10:00～②13:30～（30分前から受付）

■ところ／前田教育会館 蕉門ホール
（伊賀市大谷 670 ☎24-5511）

※感染拡大時はマスクの着用をお願いする場合があります。



山田珠子は、息子・忠男と二人暮らし。毎朝決まった時間に起床して、朝食をとり、決まった時間に家を出る。庭にある梅の木は伸び放題で、隣の里村家からは苦情が届いていた。ある日、グループホームの案内を受けた珠子は、悩んだ末に忠男の入居を決める。しかし、初めて離れて暮らすことになった忠男は環境の変化に戸惑い、ホームを抜け出してしまう。そんな中、珠子は邪魔になる梅の木を切ることを決意するが…。

■監督・脚本／和島香太郎 ■出演：加賀まりこ、塚地武雅、渡辺いっけい、斎藤汰鷹、林家正蔵、高島礼子 ほか

※鑑賞券／一般前売券 1,000 円（当日1,300円）
小中高生前売券 800 円（当日1,000円）

- 鑑賞券を希望の方は、申込受付フォームまたは、伊賀市社協か前田教育会までご連絡ください。
- 鑑賞券は、当日会場で代金と引き換えます。
- （受付開始 11/1(水)10:00～ 前売券は事前予約のみ）
- 乗り合わせにご協力ください



申込フォーム

○主催／公益財団法人 前田教育会 ☎0595-24-5511 ○共催／（福）伊賀市社会福祉協議会 ☎0595-33-0064
○後援／三重県共同募金会伊賀市共同募金委員会

数字で見る伊賀市の福祉

令和5年9月末現在（前月比）

伊賀市の人口	▶ 86,216人（-62人）		
伊賀市の世帯数	▶ 40,496世帯		
65歳以上高齢者数	▶ 29,191人（-5人）	高齢化率	▶ 33.9%（+0.1%）
75歳以上高齢者数	▶ 16,175人（+50人）	後期高齢化率	▶ 18.8%（+0.1%）
介護保険認定者数	▶ 6,198人（+93人）		

あなたのまちの
ふれあい・いきいきサロン

No.198



イキイキサロン東忍

メンバー数／20名

開催場所／銀座の館「和ホール」

開催頻度／月1回 月曜午後1時～

イキイキサロン東忍は、平成23年から地域の人が集える“憩いの場”として定期的で開催されています。

毎回たくさんの参加者が来られ、会食や音楽療法、おしゃべりなど趣向を変えて、月1回開催していましたが、コロナ禍で集まることができず、会員のみなさんの安否が気になるようになりました。そこで、その間は、毎月お菓子を持って扉越しで安否確認を行い、元気でいてくださることに、ホッと安心したそうです。

現在は、感染等に気を配りながら、食事以外は以前のように実施し、楽しい時間を過ごしています。まちなかの情報や近隣住民の暮らしの様子が話題となり、にぎやかな雰囲気でも過ごされています。

「あの人最近見やへんけど、元気にしてるんやろか？」などと、近隣住民を気かけながら温かな雰囲気に包まれ、サロンの機会を通して、ゆるやかに繋がっています。今後もこれまでどおり、息の長い活動を続けていきたいと願ってられます。

我ら！ふくし
レンジャー

No.207



かわせ やすえ

川瀬 康江さん(73歳) 阿山在住

●活動を始めたきっかけ

13年前に、鞆田小学校が市教育委員会の研究指定校として活動を開始したことがきっかけで、子ども達に関わるようになりました。ボランティア活動をしていて、子どもたちが地元で健やかに成長できるように、もっと活動を広げていきたいと思うようになりました。

●活動内容

最初は、地元の子どもたちと共に、休耕田で在来大豆を栽培をし、近年は小学校で在来大豆の由来や栽培方法の授業や、実習もしています。在来大豆を使った自作レシピ「なんちゃってピザ」、「もちっと大豆」を取り入れていただき、調理のサポートもしています。また、家庭科の授業で、ミシンの使い方などのお手伝いをしています。子どもたちの「できた!」という喜びの声は活動の励みになっています。子どもたちが苦手意識なく楽しく学び、自信に繋がればと思います。

●今後の抱負

今後も子ども達と関わることで、地元で健やかに育っていただくことを願い、将来、この地元に帰って来てくださることを楽しみに、元気に活動を続けていきたいです。

表紙は、伊賀市国際交流フェスタのブースで、「伊賀市災害ボランティアセンター」として、外国人防災リーダーが防災アプリの導入支援で活躍した様子です。その他、ハワイ・マウイ島火災の支援募金活動も行い、多くの支援が集まりました。

編集後記

編集・発行

伊賀市社会福祉協議会

本部	〒518-0829 平野山之下380番地5 伊賀市総合福祉会館 1階 ☎0595(21)5866 / FAX0595(26)0002
上野	〒518-0829 平野山之下380番地5 伊賀市総合福祉会館 1階 ☎0595(21)1112 / FAX0595(21)8123
地域センター	いがまち 〒519-1413 愛田 513番地 いがまち保健福祉センター「愛の里」 ☎0595(45)1012 / FAX0595(45)1050
	島ヶ原 〒519-1711 島ヶ原 4743番地 島ヶ原福祉センター「清流」 ☎0595(59)3132 / FAX0595(59)3145
	阿山 〒518-1313 馬場 1128番地の1 阿山保健福祉センター ☎0595(43)1854 / FAX0595(43)1577
	大山田 〒518-1422 平田 656番地の1 大山田福祉センター ☎0595(47)0780 / FAX0595(46)1165
	青山 〒518-0226 阿保 1988の1番地 青山福祉センター ☎0595(52)2999 / FAX0595(52)3555

●この広報誌は、社協会費、有料広告等により発行しております。

No.212 11月号

8